

在日外国人とコミュニケーションが取れる避難所を目指して

田中花 光岡優衣 山内優月 城平衣桜 細川花音 担当教員:横田幸治

序論

背景

宇和島市の在日外国人のうち日本語を学んでいない人が4割→在日外国人にとって災害時の避難が難しい



在日外国人にとってわかりやすい言語で表示することで、速やかに避難をすることができるのではないか

目的

- ①コミュニケーション時の言語の壁を取り払い避難生活をよりよくする
- ②避難所利用に関する課題を明らかにし、言語的・文化的な壁を解消、避難を速やかにする
- ③現在宇和島市が行っている取り組みを活かし、防災無線や日本語教室などの支援を充実させる

研究方法

- 市役所と連絡を取る
 - ・「ココりんうわじま」の**内容改善**、**普及活動**
 - ・市が配布している防災無線に**多言語放送を追加**
- 井上ら「外国人向け防災アプリの普及に向けて」(2024)の内容を引き継ぐ



参考 宇和島市HP(商工観光課)、宇和島市HP

実践

市内在住の東南アジア出身の方たち(14名)に防災に関するインタビューを行った。

- ① 避難所を知っているか
- ② 避難訓練をしたことがあるか
- ③ 非常持ち出し袋は持っているか
- ④ 防災無線の内容は理解できているか
- ⑤ 出身国では何か訓練をしているか
- ⑥ ココりんうわじまを知っているか
- ⑦ 地震を体験してどう思ったか
- ⑧ 住んでいる地域のハザードマップを見たことはあるか
- ⑨ 避難をして不便なことはあるか

